

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

鳥取県

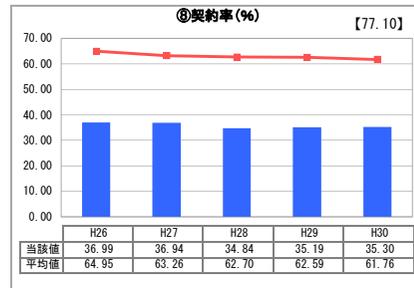
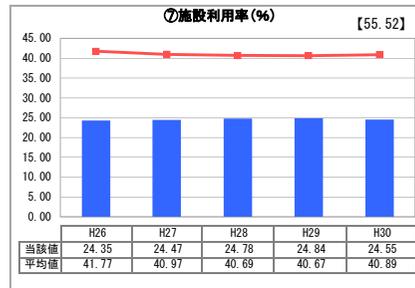
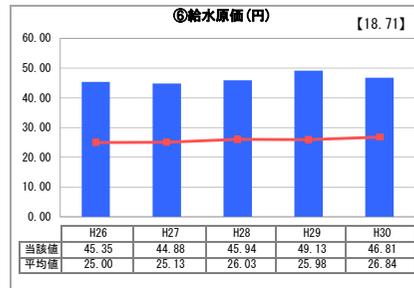
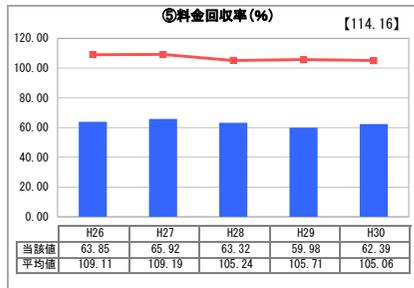
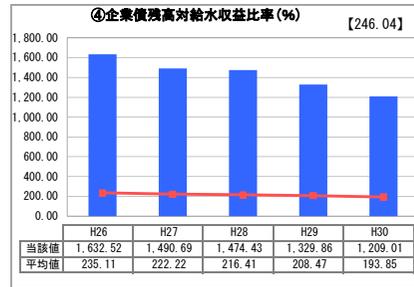
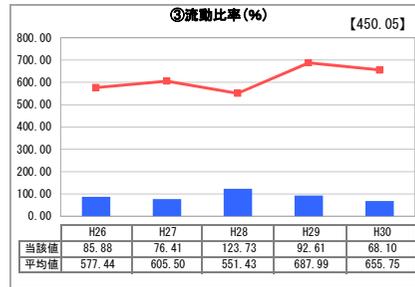
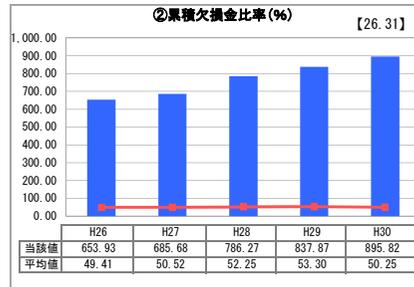
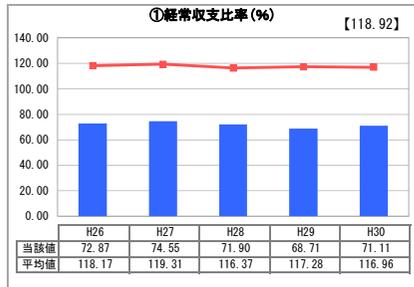
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	97,600	中規模	2	23,964
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	37.9	95	34,450	非設置	

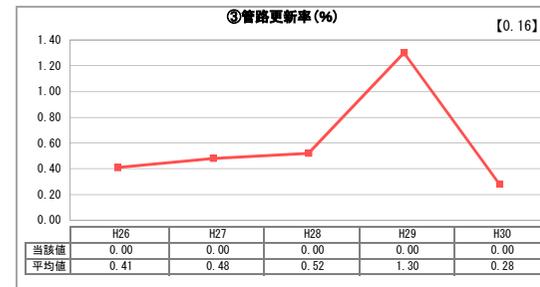
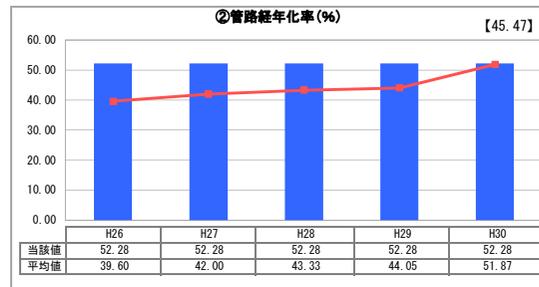
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、過去の大口ユーザーの契約水量の大幅減以降、費用削減と積極的な営業活動を継続しているものの100%を割り込んでいる状況が続いている。

この結果、累積欠損金が増加しており、累積欠損金比率は上昇傾向にある。急速な改善は見込まれるもの引き続き費用削減と契約水量の増加を図っていく。

流動比率について、主に現金預金の減少により低下している。現在企業債償還のピーク期に当たっており急速な改善は困難だが、一般会計からの出資金を充てるなどして改善を図っている。

企業債残高対給水収益比率については、全国平均を上回っているものの、償還のピーク期を迎えていることから下降傾向にある。

料金回収率から契約率については、過去の大口ユーザーの契約水量の大幅減の影響を受けたものとなっている。急速な改善は困難が見込まれるが、営業活動とともに今後施設規模の適正化にも努めている。

2. 老朽化の状況について

耐用年数を経過した管路については、比較的健全な状態を保っていることから、短期的には管路更新ではなく改修や修繕で対応している。

なお、管路以外の施設について、国の強靱化事業補助金制度を活用するなどして、長寿命化に着手しているところである。

全体総括

当面急速な経営改善は難しいと見込まれるものの営業活動の成果が出つつあり、比較的大規模な契約案件が成立する見通しである。今後とも経費節減に努めつつ、商工部局や供給先自治体との連携を深め、営業活動を展開することで収入増につなげ、財務状況を改善し、引き続き県内産業を支えるインフラとしての役割を果たしたい。